



鉄 齋

秋季特別展

会 期

10月13日(火)～12月13日(日)

月曜日休館

(但し 11月23日は開館 11月24日は休館)

豊かな主題・豊かな画風

鉄斎画の全体を鳥瞰的にみた場合、そのテーマが如何にも広範囲にわたっていることにあらためて驚くことが多い。一般に絵画を分類して、風景、人物、花鳥などと称するのは常套的であるが、その風景画一つをとってみても、鉄斎にはいわゆる僊境図をはじめとして、隠者の山中閑居図、中国または日本の歴史・故事・詩文にもとづく山水、それに文人独特の真景図などにわたり、それらの各々が、鉄斎独自の造形感覚と筆致によって描かれているのである。勿論、制作年代によってそれらに変化発展がみられるのは当然であるが、その独自性の裏づけとなる要素の重要な一つに、精神性を挙げることができるのは、鉄斎が他の多くの近代画家と識別し得る最大の特質である。そしてその精神性によって来る所以については、鉄斎の生涯と人となりとが挙げて語られるところであるが、実際の画面の上でそれは格調とともに些かの機知というスパイスを伴ってあらわれている。

具体的な描法という点では、若年の頃より古今の東洋画の多くを摂取しているので、それらを精力的に消化したことは論を俟たないが、この格調と機知とは、鉄斎に自ずから備わっていた天賦の表現力で、それが人々をして魅きつけ、あるいは尊敬の念と親しみとをあわせて抱かせた第一の条件のように思われる。したがってそれらを日本や中国の美術史上からスタイルとして帰納させようとする試みは少し無理なようで、たとえば鉄斎の一連の僊境図を例にあげれば、そこにイメージされた僊境は、あたかもこの世に理想的に存在し得る現実感を伴い、或いは蘇東坡に取材した作にしても、描かれる東坡は、いかにも東坡その人とさえ思えてくるのは、あながち錯覚とはい難いだろう。いいかえれば絵画というものには実証性と無縁な側面もあり、リアリズムの彼方には想像力の豊かな者のみが、そのイメージをふくらませ得るといふ底知れぬ可能性を有することを示すものだといつてよい。

鉄斎の格調と機知とはそうしたところから生じているもので、それはむしろ、あらゆる既成の画題を自己流にオリジナル化し創生させてしまう原動力であったといえるのであり、鉄斎の画題が多岐にわたっている理由の一つにも算えあげることができる。ここに仏典に取材した作で少なからぬ遺作のある観世音菩薩像についていえば、それは実は我々俗人にはあまり的確とはいえぬ知識と、古くからの伝統的な信仰とによって或る程度固定されながら親しまれているものの、それを真実な存在として意識するためには、或いは万卷の経典より鉄斎画くところをみる方が直接的といったことにもなるのである。鉄斎の謹厳な宗教心と熱心な研究がそのバックボーンとなっていることは容易に想像できるとしても、それらを画面に定着させるには、やはり自然に備わったヒューマニズムにおいては考えられ



115 扶桑神境図

ないところが鉄斎の鉄斎たるところなのであろう。であるから、晩年に多い僊境図においては、それらのすべてが昇華して、自然と一体となってきた鉄斎の無心な境地が自由に障りなく展開し、もはや学問や教養からできえ解き放たれて、人間が神仙に近づいたような啓示を感じ得る。それらを鉄斎は如何にも楽しげな筆致で、多様な技法をごくスムーズに重ねあわせているが、結果としてそれぞれの表現に微妙な変幻が生じていて、観る者を倦かせないのである。

ところで一般に東洋画を学ぶ場合、避けて通れない根本的な技法の一つに水墨画があるのは周知のことである。水墨の用法は、いうまでもなく中国古代から長い伝統を経て今日に至っているわけであるが、その骨法、用法に関する意見はさまざまである。鉄斎においても、若くしては瀟洒あるいは綿密と称し得る水墨の技法がみられ、あるいは堅牢で重々しい用筆の時代もあった。しかし年令を加えるにつれ、それは画題の拡大に比例して驚くべき自由さと迫力とを獲得し、晩年に至っては清澄なうちにも変化に富んだ動きを示して、墨色あるいは筆触の独創性は余人に擢んでたのである。中国の宋元時代や日本の室町時代、水墨画のジャンルは、神秘的とさえいえる境地に達し、その深刻さは他の絵画様式とは次元を異にする思考を人間に強いたものであったが、鉄斎の水墨も、近代的な意味で広さと深さを拡大し、やはり迂濶には見逃してしまえない要素を多分に有している。一方、鉄斎の色彩画はその水墨の骨法を画面に沈潜させながら、俄然趣きを変え、大胆、鮮麗さをその特徴としている。特に青緑を用いた山水は鉄斎画の領域を更に豊かに押し拡げ、いわゆる文人画の概念をも打破してしまう勢いのもので、世にカラリストなる評語をよんでいる程であるが、もとよりこの水墨と色彩という両面も、鉄斎においてはごく自然に同居していたであらう。

今回の展示は、鉄斎の画業を追いながら以上のような特質を明らかにするべく意図されている。したがってその内容及び展開もオーソドックスであるが、特に鉄斎の思想的発展や倫理観をよみとるには好機会であろう。鉄斎が常々自らの絵について「意味のないものは描かぬ」といつていたことも、あるいは容易に肯けるであろうし何よりもその豊かな主題と豊かな描法には、尽きることない世界が展開される筈である。その多面性は今日、鉄斎芸術が普遍的な国際性を得ている理由であるといっても言いすぎではないであろう。

なお、本年すでに展示された花鳥画、書、粉本の類は、今回はこれを割愛した。ご清鑑をお待ち申しあげるとともにご諒承をお願いする次第である。



105 普陀落山觀世音菩薩像

(村越英明)

《出品目錄》

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・彩色	形状
1	名勝十二月図	1866(慶応2)	31	133.3×63.0	紙本 淡彩	掛軸
2	藤娘図 蓮月尼歌賛	1866(慶応2)	31	121.5×40.8	絹本 着色	掛軸
3	山中訪友図	1868(慶応4)	33	133.4×30.0	紙本 淡彩	掛軸
4	十六羅漢像	1868(慶応4)	33	128.5×28.8	紙本 着色	掛軸
5	擬大津絵小帖	1869(明治2)	34	(各)17.7×14.6	絹本 着色	画帖
6	高士隠栖・松雲僊境図	1870(明治3)	35	(各)167.0×360.0	絹本 着色	六曲屏風
7	江山雪霽図	不詳	30代	130.0×41.7	紙本 淡彩	掛軸
8	三津浜魚市図	1875(明治8)	40	180.2×81.9	紙本 淡彩	掛軸
9	日本絵図	1876(明治9)	41	179.3×96.2	紙本 淡彩	掛軸
10	漁樵問答図	1877(明治10)	42	146.4×65.4	紙本 淡彩	掛軸
11	淡彩山水図	1878(明治11)	43	149.7×68.0	紙本 淡彩	掛軸
12	空翠濕衣図	不詳	40代	144.2×78.5	紙本 水墨	掛軸
13	北野大茶湯図卷	1890(明治23)	55	33.1×575.3	絹本 着色	卷子
14	蕉翁乘馬図	不詳	50代	127.6×50.5	絹本 着色	掛軸
15	砧図	不詳	50代	12.0×38.0	紙本 淡彩	扇子
16	山上憶良貧窮問答歌図	1891(明治24)	56	130.5×42.2	絹本 着色	掛軸
17	野亭遊客図	1894(明治27)	59	180.8×96.9	紙本 水墨	掛軸
18	寿山福海図	1899(明治32)	64	(各)127.8×50.1	絹本 着色	掛軸
19	觀世音菩薩育子図	1900(明治33)	65	127.3×51.0	絹本 着色	掛軸
20	觀世音菩薩像 附普門品	不詳	60代	133.8×69.7	紙本 水墨	掛軸
21	溪山勝概図	不詳	60代	187.2×99.9	紙本 水墨	掛軸
22	勾白字詩七絶	不詳	60代	112.0×51.2	絹本 着色	掛軸
23	七福遊戯図	不詳	60代	30.0×192.8	紙本 着色	卷子
24	十二生肖図卷	不詳	60代	27.2×136.3	紙本 着色	卷子
25	三老登嶽図	1901(明治34)	66	129.6×50.3	絹本 着色	掛軸
26	五岳真形図	1903(明治36)	68	31.1×140.8	紙本 着色	卷子
27	隠士牡丹花肖柏像	1905(明治38)	70	127.6×49.8	絹本 着色	掛軸
28	十六応真画像	1906(明治39)	71	156.8×71.0	絹本 着色	掛軸
29	朱鍾馗像	1907(明治40)	72	106.6×21.0	紙本 朱画	掛軸
30	赤壁前後図	1907(明治40)	72	(各)144.4×42.5	絹本 着色	掛軸
31	十六羅漢画卷	1909(明治42)	74	19.4×345.5	紙本 淡彩	卷子
32	山陽逸事図	不詳	70代	18.4×49.5	紙本 着色	扇子
33	人生行楽図	1911(明治44)	76	124.8×40.6	紙本 水墨	掛軸
34	福祿寿図	1912(明治45)	77	129.5×52.0	絹本 着色	掛軸
35	莊子八千椿図	1912(明治45)	77	142.0×42.0	絹本 着色	掛軸
36	擬土佐又平筆法遊戯人物図	1912(大正1)	77	138.0×51.2	絹本 着色	掛軸
37	黄不動明王画像	1913(大正2)	78	135.3×50.8	絹本 着色	掛軸
38	虎溪三笑図	1914(大正3)	79	137.7×34.4	紙本 水墨	掛軸
39	華之世界図	1914(大正3)	79	140.1×41.6	絹本 着色	掛軸
40	梅山幽趣図	1915(大正4)	80	129.9×41.7	絹本 着色	掛軸
41	東瀛神境図	1915(大正4)	80	150.4×81.4	紙本 水墨	掛軸
42	蘇子笠屐図	1917(大正6)	82	146.4×61.0	紙本 淡彩	掛軸
43	東坡帰院図	1917(大正6)	82	132.8×32.3	紙本 着色	掛軸
44	寄情丘壑図	1917(大正6)	82	145.5×52.3	絹本 着色	掛軸
45	大瀑図	1917(大正6)	82	144.2×87.0	絹本 水墨	掛軸

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・彩色	形状
46	平安勝景図	1917 (大正6)	82	16.5×51.0	紙本 着色	扇子
47	大原邨婦図	1918 (大正7)	83	141.4×52.0	絹本 着色	掛軸
48	山高水長図	1918 (大正7)	83	142.6×51.3	絹本 着色	掛軸
49	東瀛儂苑図	1918 (大正7)	83	74.9×85.8	絹本 着色	掛軸
50	孔明躬耕図	1919 (大正8)	84	131.4×47.9	紙本 淡彩	掛軸
51	乘桴浮海図	1919 (大正8)	84	165.4×50.0	絹本 着色	掛軸
52	大布放賭図	1919 (大正8)	84	136.4×35.3	紙本 着色	掛軸
53	伏魔大帝関雲長像	1919 (大正8)	84	155.7×46.6	紙本 着色	掛軸
54	茂松清泉図	1919 (大正8)	84	153.5×51.1	絹本 着色	掛軸
55	鞆川雪景図	1919 (大正8)	84	133.6×64.4	紙本 淡彩	掛軸
56	東瀛神山図	1920 (大正9)	85	132.5×42.0	絹本 着色	掛軸
57	福祿寿図	1920 (大正9)	85	131.5×63.8	紙本 着色	掛軸
58	読書立志図	1920 (大正9)	85	132.0×34.5	紙本 淡彩	掛軸
59	東坡調佛印図	1920 (大正9)	85	133.0×33.6	紙本 淡彩	掛軸
60	大國大神々影	1920 (大正9)	85	127.6×43.7	紺紙 金泥	掛軸
61	漁邨暮雨図	1920 (大正9)	85	131.0×32.3	紙本 水墨	掛軸
62	蓬萊群僊会図	1920 (大正9)	85	190.5×58.4	紙本 淡彩	掛軸
63	労働生活図	1920 (大正9)	85	134.5×34.0	紙本 淡彩	掛軸
64	洛西大秦瑠璃光如来画像	1920 (大正9)	85	135.7×38.0	紙本 淡彩	掛軸
65	陳希夷僊窩図	1920 (大正9)	85	131.0×32.5	紙本 着色	掛軸
66	東山秋霽図	1920 (大正9)	85	16.5×52.6	紙本 着色	扇子
67	空山静境図	1921 (大正10)	86	141.2×41.0	絹本 着色	掛軸
68	菖蒲節図	1921 (大正10)	86	132.5×32.0	紙本 着色	掛軸
69	東坡煎茶図	1921 (大正10)	86	133.0×32.6	紙本 淡彩	掛軸
70	雲關石門図	1921 (大正10)	86	131.7×54.3	紙本 水墨	掛軸
71	蘇子談癖図	1921 (大正10)	86	131.8×32.1	紙本 淡彩	掛軸
72	天空海闊図	1921 (大正10)	86	16.5×49.0	紙本 着色	扇子
73	孫真人山居図	1921 (大正10)	86	145.9×40.4	紙本 着色	掛軸
74	帝者師太公望釣魚図	1921 (大正10)	86	141.5×38.6	紙本 淡彩	掛軸
75	甌北清夏図	1921 (大正10)	86	(各) 17.5×53.5	紙本着色・墨書	扇子
76	補陀落迦山図	1921 (大正10)	86	146.1×40.6	紙本 着色	掛軸
77	漁父会飲図	1922 (大正11)	87	132.6×32.1	紙本 着色	掛軸
78	七福遊戯図	1922 (大正11)	87	141.6×41.3	絹本 着色	掛軸
79	水郷消夏図	1922 (大正11)	87	(各) 21.0×69.5	紙本着色・墨書	扇子
80	心遊仙境図	1922 (大正11)	87	131.9×33.7	紙本 着色	掛軸
81	東坡閑居図	1922 (大正11)	87	131.3×31.8	紙本 淡彩	掛軸
82	東坡閑居図	1922 (大正11)	87	153.5×42.8	紙本 着色	掛軸
83	青龍起雲図	1923 (大正12)	88	133.5×32.5	紙本 淡彩	掛軸
84	南海普陀山図	1923 (大正12)	88	131.2×65.1	紙本 水墨	掛軸
85	普陀落山觀世音菩薩像	1923 (大正12)	88	130.8×65.3	紙本 淡彩	掛軸
86	紙雛図	1923 (大正12)	88	128.7×47.0	紙本 着色	掛軸
87	静居至楽図	1923 (大正12)	88	145.8×40.4	紙本 着色	掛軸
88	古佛龕図	1923 (大正12)	88	149.7×39.8	紙本 着色	掛軸
89	雲山化城図	1923 (大正12)	88	133.5×33.5	紙本 水墨	掛軸
90	層巒僊閣図	1923 (大正12)	88	146.5×40.3	紙本 水墨	掛軸
91	蓬丘僊境図	1923 (大正12)	88	175.1×48.0	紙本 着色	掛軸
92	金粟如来維摩詰像	1923 (大正12)	88	96.3×43.0	紙本 淡彩	掛軸

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・彩色	形状
93	山水・蔬菜図	1923 (大正12)	88	(各) 16.4×49.8	紙本 淡彩	扇子
94	普陀落山觀世音菩薩像	1923 (大正12)	88	128.3×30.4	紙本 水墨	掛軸
95	対山医俗図	1924 (大正13)	89	169.8×41.2	紙本 水墨	掛軸
96	梅華書屋図	1924 (大正13)	89	145.6×40.1	紙本 着色	掛軸
97	梅花書屋図	1924 (大正13)	89	109.4×39.0	紙本 淡彩	掛軸
98	蘇斜川図	1924 (大正13)	89	134.5×33.5	紙本 淡彩	掛軸
99	寿老人図	1924 (大正13)	89	133.4×51.2	紙本 着色	掛軸
100	陸羽茶癖図	1924 (大正13)	89	133.9×33.5	紙本 淡彩	掛軸
101	弘法大師在唐遊歴図	1924 (大正13)	89	132.9×33.3	紙本 淡彩	掛軸
102	巖栖十八羅漢圍碁図	1924 (大正13)	89	144.6×39.2	紙本 淡彩	掛軸
103	葡萄苑図	1924 (大正13)	89	132.8×32.1	紙本 淡彩	掛軸
104	聖者問答図	1924 (大正13)	89	132.6×32.2	紙本 淡彩	掛軸
105	普陀落山觀世音菩薩像	1924 (大正13)	89	89.3×32.8	紙本 淡彩	掛軸
106	君子清遊図	1924 (大正13)	89(90)	144.5×40.5	紙本 淡彩	掛軸
107	聖者舟遊図	1924 (大正13)	89(90)	143.8×39.6	紙本 淡彩	掛軸
108	昇天龍図	1924 (大正13)	89(90)	132.2×32.0	紙本 水墨	掛軸
109	蓬萊仙境図	1924 (大正13)	89(90)	143.5×39.0	紙本 着色	掛軸
110	立身木図	1924 (大正13)	89(90)	144.6×39.2	紙本 淡彩	掛軸
111	能因法師図	1924 (大正13)	89(90)	128.8×38.2	紙本 淡彩	掛軸
112	水墨清趣図	1924 (大正13)	89(90)	144.0×39.1	紙本 水墨	掛軸
113	溪居読書図	1924 (大正13)	89(90)	145.1×39.1	紙本 淡彩	掛軸
114	瀛洲僊境図	1924 (大正13)	89(90)	142.6×40.2	紙本 着色	掛軸
115	扶桑神境図	1924 (大正13)	89(90)	144.5×39.3	紙本 着色	掛軸

出品作品は期間中下記の通り三回にわけて展示いたします。

但し一部作品は重複することがあります。

第一回 10月13日(火)～11月1日(日)

第二回 11月3日(火)～11月23日(月)

第三回 11月25日(水)～12月13日(日)